令和3年度第1回長浜市公共施設マネジメント推進委員会 会議要点録

- 1 日 時 令和3年7月28日（水）10：00～11：50
- 2 場 所 長浜市役所 3-Bコミュニティルーム
- 3 出席者 ○委員（9人）
遠藤委員、横山委員、片山委員、北川委員、平井委員、
三和田委員、清水委員、野洲委員、石田委員
○事務局（6人）
松居総務部長
河瀬財政課長、中村財産活用政策室長、内藤副参事、高田主査
- 4 欠席者 長谷委員
- 5 傍聴者 1名
- 6 開 会
- ・松居総務部長から挨拶
 - ・定足数の確認
 - ・委員、事務局の紹介
 - ・資料の確認
 - ・会議の公開について確認
 - ・委員長、副委員長の選任 … 遠藤委員長、横山副委員長を互選
 - ・長浜市公共施設マネジメント推進委員会についての説明
- 7 議 題
- (1) 長浜市公共施設等総合管理計画の概要等
- ・資料3に基づき、事務局から説明
- 【質疑・意見等】**
- ・ 行政財産の利活用については、合併による旧町の支所を柔軟な考え方で許可等を行い、有効活用を図っていったらどうか。
- > そうした視点を持ちながら進めて行きたいと考えている。実際活用できている支所もある。空きスペースについては例えば湖北支所のように利活用を図っていききたい。具体的には、湖北支所には社会福祉協議会や長浜市商工会に入居いただいている。他にも空きスペースがあるので、その有効活用は引き続き進めていきたいと考えている。

- ・ 民間企業も含め、初期投資が要らない部分や、広い駐車場等があるので、ニーズはあると思う。行政財産の使用許可はハードルが高い部分もあるが、柔軟に考えてもらいたい。
 - ・ 北部には立派な小中学校があるが、閉校した学校は、解体されるのか利活用を図るのか方針が不明である。行き当たってからでなく、先持って議論される方がよいと思う。
- 市内の小中学校については、小学校の統合や小中一貫校への取組が順次地域ごとに進んでいる。浅井地区では上草野小学校、七尾小学校が一つの浅井小学校となった。旧上草野小学校は、あざいカルチャー&スポーツビレッジとして10年間の無償貸付による拠点となっている。旧七尾小学校も先般、長浜浪漫ビール(株)がウイスキーの貯蔵・熟成場所として活用いただけることとなった。その他、杉野小中学校も木之本に統合されたので、その活用の議論が地元でも開始されたところ。ご指摘の旧鏡岡中学校や余呉の利活用については、地元の方のこれまでの思い入れ等のあるシンボリックな存在であるので、学校の統合・再編とできるだけ合わせて利活用議論も進めていきたいと思うが、タイミングや教育委員会の動きとも連携し、利活用を早めに議論していきたいと考えている。
- ・ 人口減少の中で有効活用が難しい面もあるが、コロナ禍もありハードよりソフトの方が重要と皆さん言われる。例えば、ワーケーションしたい場合も一般的な什器等を用いた公共施設においては、地域づくり協議会や地域団体に利活用を考えようと言っても、なかなかノウハウがない。専門的な見地からアドバイスができるようなアドバイザーじゃなくともデザインの思考が重要になってくる。例えば古い小学校だとしても壁紙一枚換えるだけでよい環境に変わる。使い勝手のよい今風の椅子に換えれば、建物は古くとも十分今の時代にあった使い方ができる。そういう思考を少しこれからは公共施設マネジメントの中に、建物の増減とかそういう思考だけでなく、有効活用する際に少し手を入れ、少し投資すれば使う人たちが増えてくる。それが呼び水になっていくのではないかと思う。環境の悪い所は使わないと思う。そういう面の対応を考えていくべきではないかと思う。

(2) 長浜市公共施設等総合管理計画の進行管理（前年度実績）について

- ・ 資料4～資料9に基づき、事務局から説明

【質疑・意見等】

- ・ 全体的なことも含めて2つ絞って申しあげる。総論はわかった、財政的な見地もわかる。問題は、ここから先の実効性。そのためには、具体的な基準と具体的な進め方のフロー図を定めないといけない。どういうことかという、財政的な見地は、いの一に来るが、他自治体で同様の委員会でも6つの基準を定めた。一つは将来世代の負担

軽減、二つ目は効率的・効果的な行政運営、事務の効率化、三つめは民間事業者への代替が可能かどうか、四つ目に危機管理機能。この委員会には専門家が入っていないが、重要な点。それから多様化する行政需要に対するサービス。それから住民の利便性の向上。例えば支所機能を廃止していくのも一つの方向性だが、その代わり、機能をどう代替していくのか。こういう基準に基づき、次に優先度を考えなければならない。

先ほど長寿命化しても根本的な解決にならないとあったが、国の言い方が間違い。順番としては、まず廃止できるかどうか。その次に、残すとすれば、複合化できるか、統合できるか。その次に、民間活力を導入できるかどうか。これは指定管理者とか公民連携で、民間で作ってもらったり運営を任せるといったことだけではない。非保有という考え方があり、これからは行政が全部なり公設公営で公共建築物・公共施設等を所有していくという考え方は成り立たない。したがって民間が持っている施設を利用する。例えば、先ほどの旧役場を廃止するのであれば、地域には郵便局がある。そうした公共的団体に建物は借りて支所機能を果たす。こういうことが一つ民間活力の導入である。公民連携。こういう概念がある。そして最後に残る、残すしかないという物を長寿命化する。国は長寿命化を最初にやれと言うけれども間違い。財務上、優先度は出ている。つまり老朽化比率、固定資産累計額と考えていけば、取得原価が高く、減価償却費が一番高い、つまり老朽化が進んでいるものからメスを入れていくというのは当たり前の話。ところが多くの自治体で問題となっているのは、そういう客観的な証拠を積み上げていく、あるいはそういうことを言わず政治的な問題ですか、合併した自治体に多いが地域傾向とか、合理的な理屈を考えないところ。これではいつまでも合理的な総合管理計画はできない。したがって、みんなが納得する公正中立な立場で基準と手順を示していくことが大事かと思う。

しかし、そうした手順を機械的にやっていけばよいかと言うと血も涙もないという話になる。そこで2つ目の観点として申しあげたいのが、委員がおっしゃったように公共施設マネジメントと言うとどうしてもハード・建物の更新であったり、維持管理だけに注目されがち。国の要請している総合管理計画がそうだから仕方がないが、これはソフトと表裏一体。住民や団体、市民が利用したりするため、そこには色々な機能がある。地域づくり、まちづくり協議会、福祉、防災など色々な機能がある。そういった所の利用状況をしっかり把握して、その上でその仕組み自体を考えなければならない。例えば、社会教育施設を統廃合し、そのソフト面を考えていったら、ある社会教育施設はある団体が独占的に利用してしまっている。他の団体は全然入れない。これは建物のハードを考える以前の問題であって、そもそもの利用の仕方が間違っている。しかし、こういうことは是正していくチャンスであって、要は全体として建物を縮小していかないといけないのは皆わかっている。その中でいかに市民が幸せに限られた施設の中で公平に使えることになるかということを考えていかなければならない。

また、地域エゴの話はしたが、健全な意味の地域バランスは必要である。防災機能を考えればわかりやすい。災害時、旧市町単位に一つくらいはわかりやすい避難所、仮設住宅の公共施設がなければ大変なことになる。したがって、健全な意味の地域バ

ランスは必要。しかし、そういうことを例えば防災の観点から論ずる人がいないと大変である。今から委員の追加ができないのであれば、専門家の見地を聞きに行くという機会を作らなければいけない。

3つ目に確認だが、この委員会はどこまでが我々の責務なのか確認したい。私が別の自治体で関わっている委員会があって、こうしたことを決めていく原案まで作るところまでやる。いつまでも総論で35年間33%というのは机上の空論。やっぱりどこの建物をなくしていくのか統廃合するのか、その代わりどういったサービスをするのか、民間活力をどう導入するのか、こういう原案をやっぱり行政はできない。役所の立場から大変だと思う。それをやはりこういった審議会で我々が中立公平な第三者の立場からその原案を考えて、それを別に押し付けるわけではなく、住民であり議会が判断する。しかし我々が色んな合理的、客観的な数値を中立公平な立場から示しあげた結果、この建物は廃止、この建物は統合、その代わりこういうサービスをやっていく、こういうようなたたき台を作るまでがこういう委員会の責務じゃないかと思う。これは提案で、そこまで求めていないと言われればそこまでだが。

いずれにしてもそこまでやるかどうかは別にして、そういう観点で基準、フロー、手順、そしてハード・ソフト表裏一体での取り組みを是非考えていただきたい。この席に例えば他の課は全然入っていない。財政課だけで済むはずがない。地域づくりに関わる部署、社会福祉に関わる部署、社会教育に関わる部署、防災に関わる部署に入ってもらわないと。少なくとも在席してもらわないと。皆さんで情報共有されるならそれでいいが。

> 私も全く同じ意見。本日の資料を見せてもらい、最後に長寿命化計画が入っており、事務局は学校施設の統廃合によりやく手をつけるつもりでこの資料を皆さんにご提供したのかと聞いたら、いやそこまでは考えていないというような話をしゃべっていたが、おっしゃる通りで、長寿命化をするのであればどれを長寿命化するのかという議論がなければ、まさにバラマキという形になってしまうという思いを持っている。支所機能についても同様で、先ほどソフトからというお話があった。今年の人事異動の中で、各支所長にはデジタル化と窓口効率化の兼務を全て付けさせていただいた。要は支所が行う機能については、住民周りのサービスだが、今、少ない職員の中で全部の分野の相談を受けているということで、そういう担い手も当然なくなっていくので、本庁とデジタルで繋いで支所の事務は本庁の事務と同様のレベルが保たれるようなデジタルの体制を整えようということで今年から既に着手をしている。そこで効率化して、場合によっては支所ということだけでなくまちづくりセンター、いわゆる公民館にもそういう機能をすれば、もっと密度の高い行政サービスができるという。したがって、支所の建物は不要になってくるということを考えている。

それと、もう一つ先ほどおっしゃっていただいた、なかなか行政から言い出しにくいということが実際はある。特に、政治的な部分と、教育現場で教育に携わっている人間は、地域のことを非常に気にして腫れ物にさわるような気持ちで対応しているのが実態。そういった意味もあってこういった委員会、あるいは議会の後押しが重要。

小学校が統合できたのは一つは地元の議員さんが非常に汗をかいていただいたというところがある。そういう所はうまく進んでいる。そういう意味もあって一緒に外部の機関からご提言なりご意見をいただくと地域と一緒にしゃべるチャンスもできるし、一体的に進めていけることがある。ただいまの意見、非常にありがたく感謝申しあげる。

- ・ この委員会は、今日はスタートアップで立ち上がりである。国がやりなさい、今年度中に改定しなさいという部分でそのの様式は提出すると思うが、地域、長浜市のことであるので、そちらの財政的な目線と、地域の賑わいの兼ね合いがある。公共施設マネジメントはこれだけ見るとカット、カット、予算がなく無い袖は振れないとなる。それを無視して何でも投資したらこれは破綻してしまうので、これは正しく非常に重要な視点ではあるが、加えてこちらは特に合併を二度繰り返されたことで、同じような物がある。もちろん危ない施設は廃止の中、どうするかという議論があり、どう利用するかというとやっぱり主役は市民に決まっている。特に地域の市民。それが小学校レベルなのか中学校レベルなのか、もう少し広い範囲とか、あるいはもっと大きなパンデミックに対する危機管理のためには、もっと大きな枠で行政を超えた公公連携なのかとか、様々な切り口がある中で、今回の公共施設ハードを中長期の予算枠の中に入れ込もうということ。これはどこの自治体もやっているが、これを糧に見直しをかけて地域でより複合的にワンストップで使えるものがないかとか、これはある意味ピンチに見えるがチャンスである。人の動きを見てみると、公共交通に乗って通勤通学する都市じゃない。通院、ほとんどの方が医療、福祉に関わっている。そしてワンストップでの買物については、買物難民もあるし、そういうことを何とか避けながら、この地域にいて良かったと、若い人も都会行かずに戻ってくる地域づくり。実は、公共施設マネジメントはハード問題だけに見えるが、ハードは地域の基礎であり、地域づくりである。この中でスリム化はするが、やっぱり視点を将来に向けて子ども達や孫のために住みやすいハードの整備をしようじゃないかというのが重要なところだと思うので、その辺り副委員長がおっしゃったように、現状がどうなのか、利活用状況はどうだということである。

それからハードの安全性と、ハードは使えてなんぼであり、本当に使っているのかということ。あるいは、近くの婦人会のひとばかり使っていると正直あるので、特定の人でなく、開かれた地域のハードであるかどうか。そして、若い人が誰でも使ってもらえるにはどういう仕掛けをすればいいのか、知恵をしぼって行って、その中で予算を何とか枠にはめながら破綻しないような、ずっと長浜市が子々孫々栄えるようなまちづくりをしようということ。そのたたき台としてハードがたまたま前面に出ているが、実は地域づくりである。シビックプライドというか、地域の人がプライドをもって生きていける可能性が出てくるまちづくりをしようというのがこの公共施設マネジメントの基礎にあると思うので、事務局の言ってるのは間違っていないが、今日お集りいただいた委員の皆さんには、そういう目線がベースにあるんだということをご理解いただければと思う。

- ・ 私は公共施設マネジメント課が当時できたとき大変期待していた。役所がマネジメントを取り入れるというのはまず珍しかったし、企業は当然前からやっていたので、どれくらいやるのか期待するのもあって、私も公共施設マネジメント委員を公募されていた時からずっとやらせていただいているが、当初の意気込みというか、もう少し熱かったように思う。個別施設計画策定にあたっては熱い意見が出て、それはそれで良かったと思う。先ほど公共施設マネジメント課が財政課に統合されたと言われたが、人員的にどうだということがあるし、副委員長がおっしゃたことまで果たしてできるのかという思いがあるが、ただ私はすごく期待をしているので、昨年10月の会議で他の課とも連携してしゃべっているとおっしゃったので、良かったと思っているし、今でもやってもらっていると思う。私は、この課をやっぴり存続させていっていただきたいし、他の課との調整、連絡役だが、リーダーシップを取ってやっていただきたいと思っている。それで、ただ数値の整理だけの、辛口なことを言うが、その報告だけではダメなんじゃないかと思う。是非ともやっていただきたい。

それからやはり地域、私の所も人口の流出もあり、人が少なくなるだけでなく知のほうも流出していく。先ほど窓口、地域づくり協議会へ行って言ったが、その人材も色々な旧長浜市の方はたくさん分野も先輩後輩もおられるが、そういうこともあって、長浜市の指導育成というか、そこら辺の行政の指導をお願いしたい。先ほど私が言ったように、まず、本当はまちづくり委員会で小学校跡地をどうしようかという議論をしていかないといけないが、そういう機運がない。私は老人会のほうをやらせていただいているが、いろいろ見たので有志の方で、また皆さんに負担かけるのも嫌やし、ちょっとでも長生きして健康で行くために何か使わせてもらえるのかという話もあるで、その機運を本当は地元からプレゼンしていかないといけないが、正直そういう能力もないので、その辺のご指導もいただきたいという思いをしている。最後にくどくなったが、このマネジメント課という名前はなくなったけれどもこの統合されたところにもものすごく期待というか希望を持っている。

- > ご意見、激励をありがとうございます。今回公共施設マネジメント課から財政課の課内室となったが、決して縮小されたとかではなく、人員的には昨年度よりスタッフ充実しているし、財政課の視点も持ちながらしっかり利活用を進めようということで、むしろ機能強化ということで私は受け止めてがんばっていきたいと思っている。先ほどのお話もそうだが、単に進捗度合いが数字が何パーセント達成できたかそれだけをご報告してご意見をいただく場では勿体ないし、それではダメだと思っている。しっかり先ほどもお話のあった利活用の基準をもって、優先度等もつけながらしっかりとやっていくというのが本当に我々に求められていることと思っているので、十分皆さんのご意見をいただきながら、機能していきたいと思っている。しっかりやらせていただきたいと思うので、よろしく願います。

- ・こういう数値的なものが一般市民の人にはわかってないと思う。なので、もう少しわかりやすく皆にこういう状態になっていると知らしめていただきたい。子どもの数が少ないんで無くなってそれではあかんやろと、そこばかり思ってしまうので、こういうことがあってこうなりましたということを知らしめていただければ、また町内で若い人も含めて議論したりしていったら、そこに行政の方に来ていただいてこういうことなんですと言ってもらえば、少しは納得できるし、前進するのではないかとそう思った。
 - ・委員方のお話も聞きながら、そして長浜市の方針も聞きながら、私どもを考えた時に、建物の指定管理も多く受け、それに対する財政の補助も本当にいただいている。お話を聞いて浮かんできたのが、長浜市の公共施設の中でも私どもが預かっているハコばかりでなく、その中にある職員、そして利用者様、建物の安全性、そして今おっしゃった災害時の時の拠点になり得るのか、そういうこともこれからは日々のお世話だけでなく、そういう地域的なところの役割が大きいものだなとあらためて考えた。そしてここに教育委員会が出されているこういう資料も、もしできたら、学校施設等の長寿命化計画を立てなさいという指示を指導を含めながら出していただけると、おそらく今の私どもの力では良いものが出てくると思っている。こういうものの出し方、そして出すための指針、今おっしゃっていただいたように重要な優先順位があるということ踏まえて、的確なものを出してくれという指示を出していただければそういうチームが立ち上がれると思うので、これでまた日々の使用に耐えている施設がかなりあるので、是非ともよろしくお願ひしたいと思っている。
 - ・喫緊の5年間の3%という目標の根拠、そこら辺の具体的な案があるのであれば教えていただきたいと思った。どこら辺の施設を狙ってというか、言葉悪いが、閉めていくという具体的な案があるなら教えてほしい。
- ＞具体的に次がどこの施設ということではないが、これまでも施設を新たに整備する場合は、その機能の再編・統合という形でやってきている。例えば一例を申しあげると、長浜・伊香ツインアリーナを整備できたので、今びわ体育館の解体をさせていただいているし、また、他の体育館につきましても整理していくという方針がある。施設を整備したら、スクラップアンドビルドという形で整理していくというのがあるし、また、今、既に利活用されていない施設がある。これも一例で申しあげると、旧の支所も使われていない部分がある。そういった部分も民間での利活用という場合もあるし、解体・除却というやり方もあるかと思うが、そうしたものを今後進めていく中で、5年間で3パーセントという目標を達成していきたいと思っている。
- ・私もこのマネジメントに寄せていただいて、何もわからないが、何年も前から少子高齢化という話を非常に聞く。まさにそのとおりで、毎日私の町内も子どもと一緒にラジオ体操をしているが、非常に子どもも私の時代からは少なくなった。その中で大きな小学校が統合されてできた。しかし、年々子どもさんが少なくなっている。そして支所

を見ると、非常に中の職員さんも少なく昔の時代の活力のある活性化のあるそうした状況ではない。非常に部屋が空いている。先ほど委員からもご発言があったように、そうした地区であると、本当に年寄りしかおられない。若い者がどんどん街へ出て行く。その中で、どうしてそういう公共のものを老朽化したものでも先ほど言われた、一つ見方を替えて壊すだけでなく綺麗にしてまだまだもつような、そういう状況の建物であれば利用価値が非常にあるというような、そういう場所を利用して年寄りもそういう所へ行きやすく、また活性化になるような長浜市にしていければいいかなと思う。それがマネジメントの役割でもあるのではないかと思った。

(3) 公共施設のマネジメントについて

- ・遠藤委員長から別紙により話題提供。

8 閉 会